



奨励賞

設計部門



①民家の玄関前に現れた断層 (Before 写真提供：広島大学名誉教授・中田高氏)
②左が断層の覆屋、右奥が納屋の覆屋 ③発災直後、家主が玄関を開けた際に見えた光景
④地震で傾いた納屋と断層 ⑤地震の変位量が見える水路

農村の暮らしと熊本地震の記憶の継承 ～布田川断層帯谷川地区設計～

株式会社アーバンデザインコンサルタント

大杉哲哉・棚町修一・小峯裕・福岡李奈・安部あすか・
江上陽菜・首藤紗奈・堤八恵子

本設計は平成28年熊本地震の際、農家の敷地に現れた震災遺構の見学施設を対象としたものです。

地震により、斜交する2本の断層が明瞭に地表に現れ、その地震断層や被災建物などを風雨等から保護し、かつ、当時の臨場感を失わずに来場者が安全に熊本地震を追体験できるよう、変則した平面形にも対応可能なアーチ状の膜構造で覆屋を設計しました。また、整備過程で解体した母屋を後で想起できるよう残存した玄関ポーチに立つと、断層や火山活動等で形成された山並景観を、震災前と同じように眺められるよう、覆屋の柱数を減らし、柱スパンを広く確保しました。

さらに、被災建物は傾いた状態のまま保存することを目指し、木格子組などの伝統工法の応用で構造補強し、安全を確保しました。

作品概要

作品名—— 農村の暮らしと熊本地震の記憶の継承
～布田川断層帯谷川地区設計～
所在地—— 熊本県上益城郡益城町大字福原字西平1770番1
発注—— 益城町教育委員会
設計—— 株式会社アーバンデザインコンサルタント
設計協力—— Y.O設計
監理—— 株式会社アーバンデザインコンサルタント
施工—— (株)真輝、(株)坂澤建設、山王(株)、長義建設(株)
設計期間—— 2022年(R4)3月～2022年(R4)8月
規模—— 延べ面積681.34㎡、敷地面積1737.73㎡
主要施設—— 覆屋(断層)、覆屋(納屋)、納屋構造補強

作品評

本作品の対象地は、平成28年の熊本地震で地表断層帯が出現した農村集落地であり、その後貴重な災害遺構として国の天然記念物に指定された土地である。このケースでは、稀有な災害遺構をどう保存するか、災害の学びの場として何をどう伝えていくかが問われるが、応募者はこの命題に対して、①覆屋をかける、②農村の暮らしの様子を残す、③視点を設けて地震を追体験する、という方針を定めて設計に取り組んでいる。このうち①については、アーチ状のトラス構造を持つ開放的な覆屋を設け、素材の色や覆屋の高さを調整するという手法によって、「風雨等の影響による遺構の破損防止」と「農家建物と断層帯の一体性の確保」を達成している。②については、母屋跡の保存、残された納屋の改築・庭の保存等を行っているが、納屋については、来訪者のために、本来の部材と補強部分の部材を色分けするなどの工夫を行っている。③については、来訪者用の見学コースを設けるとともに、6箇所の視点を設定して追体験の場としての効果を高めている。設計に先立ってまとめられた保存活用計画・整備基本計画との関係の説明に不足が見られたが、設計作品としてきめ細かな現況分析とデザインへの配慮がなされている点が評価され、奨励賞となった。